2012 年 11 月 30 日

平成 24 年度訪問講座「日本とアジア」開催報告書

文責　塩谷昌史

１．　訪問講座「日本とアジア」開催の経緯

東北大学東北アジア研究センターとロシア連邦・ノヴォシビルスク国立大学人文学部との覚書に基づき、訪問講座「日本とアジア」の第 4 回目が、2012 年 11 月 13 日 - 15 日にノヴォシビルスク大学で開催された。今回、東北大学から参加した教員は、窪俊一・准教授（大学院情報科学研究科）、山田仁史・准教授（大学院文学研究科）、岡洋樹・副センター長（東北アジア）、高倉浩樹・准教授（東北アジア）、塩谷昌史・助教（東北アジア）の 5 名であった。今回の講師を担当されたのは、窪先生と山田先生のお二人である。講義内容は後に触れるとして、これまで講座に参加された講師の御名前を参考までに記しておきたい。

第 1 回は、2009 年 11 月 17 日～21 日に開催され、日本美術史が御専門の長岡龍作・教授（東北大学大学院文学研究科）、日本史が御専門の千葉正樹・教授（尚絅学院大学）、東洋史が御専門の岡洋樹・教授（東北アジア）が講義を担当された。第 2 回は、2010 年 10 月 5 日～9 日に開催され、考古学が御専門の阿子島香・教授（東北大学大学院文学研究科）、社会人類学が御専門の高倉浩樹・准教授（東北アジア）が講義を担当された。第 3 回は、2011 年 9 月 19 日～23 日に開催され、佐藤勢紀子・教授（東北大学高等教育開発センター）が講義を担当された。今回は第 4 回目に当たり、最終回となる。

２．　日本アジア講座

今回の訪問講座のテーマは、「神話とサブカルチャーに映る現実と想像の力」であり、このテーマに基づいて、日本のポップカルチャーが御専門の窪俊一先生（本学・情報科学研究科）と、宗教人類学が御専門の山田仁史先生（本学・文学研究科）に講義を行っていただいた。窪先生の講義のタイトルは、「カタストロフと日本のポップカルチャー」であり、山田先生の講義のタイトルは「神話とシャマニズム―日本・アイヌ・シベリア」であった。

11 月 14 日（水）の午前 10 時～12 時に、窪俊一先生の講義「カタストロフと日本のポップカルチャー」が行われた。窪先生の御研究の対象は、マンガとアニメである。訪問講座で日本のサブカルチャーが取り上げられるのは、今回が初めてである。マンガにおいては、戦争、核爆発、地震等のカタストロフがしばしば描かれ、物語の出発点となることも多い。2011 年の大震災と、それに続く原発事故は、日本のマンガにも大きな影響を与えた。窪先生の講義では、日本のマンガの現状を概観すると同時に、過去のカタストロフの物語が再

評価された。「フクシマ」以後に描かれた、新たなカタストロフの物語も分析される。この講義では、実際のマンガやアニメの画像を多数用意され、プロジェクターで写されたため、非常に分かりやすい授業となった。近年、ロシアでも、日本のマンガやアニメは人気を博しているため、学生にとって非常に興味深い講義となったのではないかと推察される。

講義を行う窪先生

講義を聞くノヴォシビルスクの大学生

窪先生の講義に続いて、12 時～14 時に山田先生の講義「神話とシャマニズム―日本・アイヌ・シベリア」が行われた。日本とシベリアの伝統的宗教には、注目すべき共通点がいくつか存在するが、両者を繋ぐのがアイヌ民族である。シャマニズム儀礼における楽器も、ユーラシアから日本に伝播した際に、弓から太鼓（シベリア）や数珠（東北日本）へと変化を遂げた可能性が指摘される。シベリアのシャマニズム、アイヌの文化、東北のシャマニズムと地域を横断する説明の中で、シベリアと東北との共通性が浮かび上がる。アイヌの歌の録音や、東北のシャマンの録画映像が披露され、面白い授業であった。通常は授業の後に、講師は学生から質問を受けるのが通例であるが、山田先生の方から学生に対し、「シャマンに馴染みがありますか？」と質問が投げかけられ、「知っている」との多くの回答が寄せられた。シベリアのアルタイやトゥバでは、シャマンはまだ健在である。

講義を行う山田先生

質問する学生

二つの講義に参加した学生は 50 人強を数え、ノヴォシビルスク大学・人文学部の学生だけでなく、外国語学部や経営学部からも聞きにきており、また、ノヴォシビルスク教育大学やノヴォシビルスク工科大学からの学生もいた。アンケート結果によると、参加者全員が二つの講義を共に分かりやすく、興味深いという回答を寄せている。ノヴォシビルスク大学人文学部の学生の中には一年生や二年生の、まだ日本語の初学者が多かったが、ロシア人の日本語教員が、二つの講義をロシア語に通訳されたため、十分に理解できたと思われる。参加した学生の中からは、今回のような講義を別のテーマで継続してほしいとの要望があった（詳細については、後で触れる）。

３．　学生の卒業論文の報告会

訪問講座では、日本人教員の講義が行われた翌日に、学生の研究報告が行われてきた。今回も従来と同様に、翌日 11 月 15 日の午前 10 時 45 分から 1 時間程度、報告会が行われた。参加した学生は、4 年生が 4 名で、5 年生が 7 名であった。形式は一人 5 分程度で、卒業論文にまとめる研究の中間報告を行うものであった。それぞれの報告に対し、講義を担当した 2 名の講師と、3 名の東北アジア教員が、質問やアドヴァイスを行った。学生の研究は、全て日本研究に関連するが、研究内容は多種多様である。

具体的に報告タイトルのいくつかを示すと、「東日本大震災の民族心理的な影響」、「アイヌ語のオノマトペの言語的分析」、「日本以外の神道の普及について」、「1960 年代の若者運動の日米仏の比較」「幕末の動乱について」等が挙げられる。全般的には日本の言語、文化、歴史に焦点を当てた、人文学的な研究テーマが多かった。研究テーマが比較的近いためか、山田先生と高倉先生は、それぞれの研究に懇切丁寧に、研究を進める上でのアドヴァイスを行った。4 年生の学生も、5 年生の学生も、まだ卒業論文をまとめるまで時間があるので、日本人教員のアドヴァイスは、学生の研究水準を引き上げる効果を持つと思われる。実際に、ノヴォシビルスクで日本語を教える、宿里先生から、東北大学教員のアドヴァイスは学生にとって適切で嬉しかった、との学生の声が、高倉先生宛にメールで送られている。

窪先生の質問に答える学生

報告する学生

友人の報告を聞く学生

４．　日露合同説明会

今回、訪問講座とほぼ同時期に、東北大学主催で「日露合同説明会」がノヴォシビルスクで行われた。11 月 13 日にノヴォシビルスク大学構内で、翌日の 14 日にノヴォシビルスク市内の「シベリア北海道文化センター」で開催された。これは、ロシアから日本の大学に留学してもらうため情報発信を行う企画である。東北大学だけでなく、秋田大学、筑波大学、東京外国語大学の教職員も加わり、4 大学の広報・案内が行われた。東北大学からは、木島明博・副理事、山口昌弘・総長特別補佐を始め、12 名が参加した。東北アジア研究センターの教職員としては、工藤純一・教授、徳田由佳子・技術補佐員が支援に当たった。

訪問講座の関係者は、11 月 13 日の昼に、北京経由でノヴォシビルスクに到着したため、日露合同説明会に直接関わることは無かったが、訪問講座と日露合同説明会を同時期に開催したことは、ノヴォシビルスクの学生や教員に、東北大学を広くアピールする点で、極めて効果的だったと思われる。「日露合同説明会」がノヴォシビルスクで行われるのは、今回が初めてであり、どれだけの学生が集まるか分からないという心配はあった。しかし、外国の大学の説明会がノヴォシビルスクで行われることは少なく、しかも、英語で履修できる留学プログラムが準備されたこともあり、初日には 200 名の学生が、二日目には 100 名近い学生が、日露大学合同説明会に参加した。説明会関係者からは、嬉しい誤算であったとの感想を聞いた。

日露合同大学説明会の様子

11 月 13 日に行われた懇親会の様子

11 月 13 日の夜に、日露合同説明会の懇親会が、ノヴォシビルスク大学近郊で行われたが、ロシア側の主賓には、ロシア科学アカデミー・シベリア支部・公共図書館館長や、ノヴォシビルスク大学副学長のラブレンティフ氏が来られて挨拶された。訪問講座関係者も、この懇親会に参加し、参加者と歓談した。訪問講座関係としては、ヴォイテシック学科長（ノヴォシビルスク大学・人文学部東洋学科）が招待された。

５．　東北大学とノヴォシビルスク大学との今後の協力について

2008 年に東北大学東北アジア研究センターと、ノヴォシビルスク国立大学人文学部とで交わされた覚書に沿って、訪問講座は今年度で終了となる。この訪問講座は、東北大学とノヴォシビルスク大学の双方にとって、成功したプログラムであった。直接的な受益者は、ノヴォシビルスク大学・人文学部東洋学科で学ぶ学生だが、それだけに止まらない。過去の訪問講座で行われた講義内容は、全てロシア語に翻訳され、ノヴォシビルスク大学の紀要に掲載されている。ノヴォシビルスク大学・人文学部東洋学科の教員が、東北大学と学術交流を積極的に推進している様子が、目に見える形で蓄積されている。2012 年 3 月に東北大学で、第 3 回日露学長会議が開催された際、ノヴォシビルスク大学学長が参加されたが、その際、東洋学科の日本語教員 2 名が学長と同行したことから、ノヴォシビルスク大学内で、東洋学科の活動が高く評価されていることが伺える。

東北アジア研究センターも、ノヴォシビルスク大学と積極的に交流していることを学内にアピールできただけでなく、他部局と連携しつつ、ノヴォシビルスク大学と橋渡しをする役割を果たし、学内の評価が高まった。実際に、訪問講座に参加された阿子島教授（大学院文学研究科）は、この訪問講座を機に、ノヴォシビルスクの考古学・民族学研究所との学術交流を推進されたし、昨年、訪問講座に参加された佐藤教授（高等教育開発センター）は、その後、ノヴォシビルスクの大学と交流されている。今後、この訪問講座を機に、ノヴォシビルスクの学生が東北大学に魅力を感じ、留学する可能性も考えられる。東北アジア研究センターは、本学とシベリアの学術交流の触媒的機能を果たした。

訪問講座は東北アジア研究センターとノヴォシビルスク大学人文学部との協定で 5 年間と明記され、2012 年度が最終年度にあたる。それゆえにこれまでの事業の確認と今後何をするかが検討された。訪問講座開催に先立ち、11 月 13 日の午後 4 時から、ラブレンティフ副学長、ブロドニコフ副学部長（人文学部）、ヴォイテシック学科長などを交えて、東北大学関係者と話し合いがもたれた。主に対応したのは、岡・副センター長と高倉・准教授であった。最初に、ヴォイテシック学科長がこの 5 年間の事業について詳細に報告し、この事業が大変実効性があり有意義な成果を挙げたことを報告した。東北アジア研究センター側からは、財政的な問題もあり、訪問講座はこれで終了し、現時点では継続されないこと説明された。その後、ノヴォシビルスク大学側の意向が示された。ラブレンティフ副学長は、東北アジア研究センターとノヴォシビルスク大学人文学部の交流が活発化した

ラブレンティフ副学長を囲んで

ことを評価し、今後、両大学の交流が日本研究の領域に止まらず、他部局をも含む学際的な学術交流となることを期待したいと述べられた。例えば、ノヴォシビルスク大学の津波研究や、コンピュータ研究の領域で、東北大学と学術交流する余地があるとも言われた。

ノヴォシビルスク大学には、ある程度、財政的余裕が生まれており、例えば、学際的なセミナーやコンファレンスを東北大学と共催するなら、大学の研究者を日本（仙台）に派遣することは十分可能とのことである。今後、お互いに話し合いながら、新しいプロジェクトに繋げて行きたい、という希望が表明された。

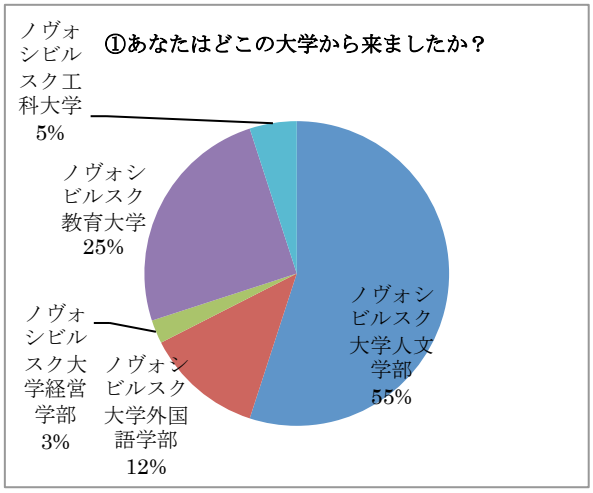
私自身（塩谷）が訪問講座に参加したのは今回が初めてだが、この講座の成功は、高倉・准教授（東北アジア）とヴォイテシック・教授（人文学部）のリーダーシップによると感じた。所属組織の協力を得ながらも、実質的には、この二人が個人的なネットワークや尽力により、訪問講座を成功に導いたと言える。東北大学側で、訪問講座の講師を選び、依頼を実際に行ったのは、高倉・准教授である。他方、ノヴォシビルスク大学側で、受け入れを実質的に組織し、歓待したのはヴォイテシック教授である。二人の連携が無ければ、訪問講座は実現しなかったであろうことは明記して良い。今後の東北大学とノヴォシビルスク大学との交流を進める際に、彼らの個人的な尽力を、もう少し組織的にカバーする体制が必要だと思われる。

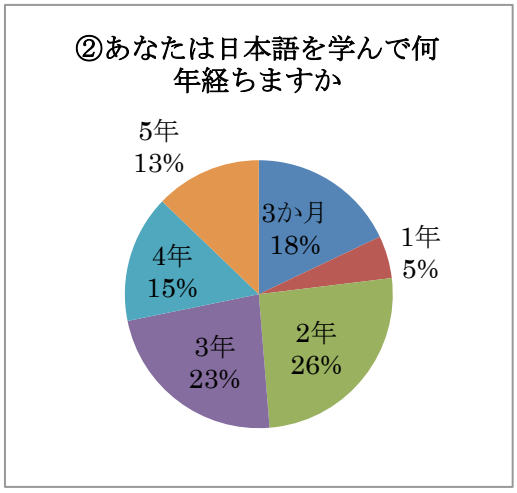
日本センター教室にて

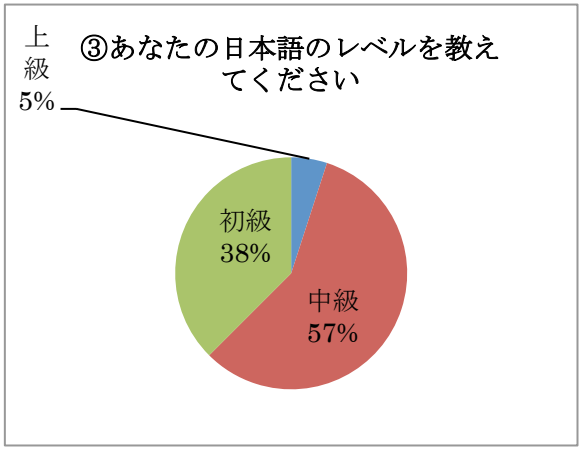
11 月 14 日の夕食会にて

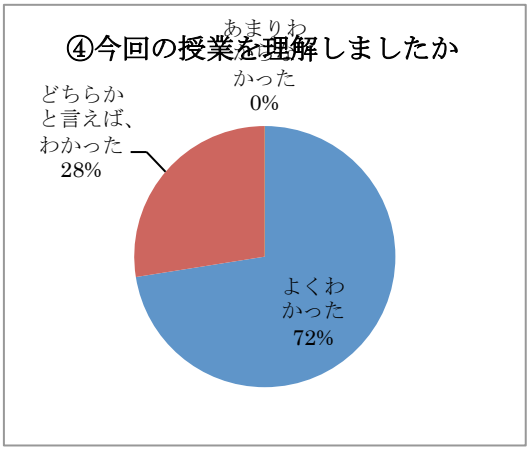
学生アンケート調査の結果「日本アジア講座」出席学生に対するアンケート

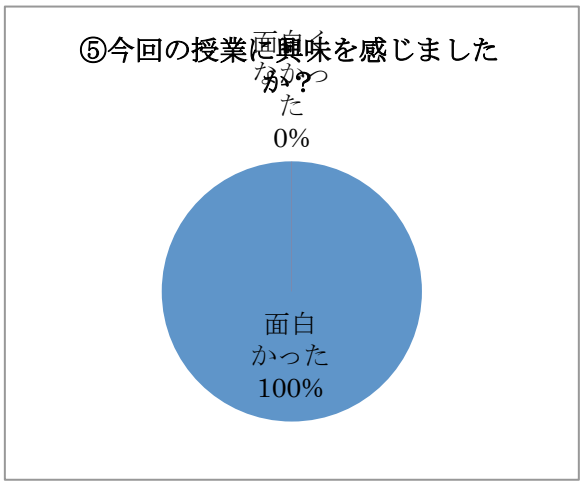
（2012 年 11 月 14 日実施）　n=40

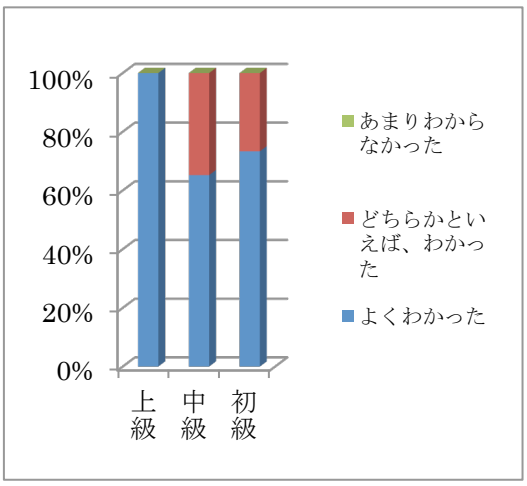












６．日本のどういう点に関心があるか

・日本史（戦国時代、新撰組）
・日本文化（茶道、書道）
・文学（俳句、短歌、村上春樹）
・伝統
・ポップカルチャー：マンガ、アニメ、ゲーム、ドラマ、声優の仕事
・哲学
・音楽（日本のミュージカル、明治期の子守唄と童謡）
・日本語（身体語彙を含む慣用句）
・日本の伝説・神話（神、妖怪）
・日本の社会学：日本の若者に関する社会学的研究
・囲碁
・日本映画
・日本の宗教
・日本の教育
・男性と女性の関係
・日本人の心理、日本の考古学

７．授業の感想

・多くの興味深いことが学べた
・アニメとマンガのことを多く学べた。シャマニズムはすごく面白かった。アイヌのことが良く分かった。私はトゥバ出身なので、シャマンに馴染みがあります
・面白く、ためになった
・素晴らしい
・面白くて娯楽的かつ教育的
・テーマが面白い
・日本人と共通するテーマがあって嬉しい
・授業で紹介された、地震に関するアニメとマンガを探したいと思います
・震災後の世界を描いているマンガについての講義は、非常に面白かったと思います。東日本大震災はマンガにも現れており、様々な面で、現代日本社会に影響を与えていると、改めて実感しました。シャマニズムについては、余り意識がなかったのですが、今日の講義を聞いて、少し分かるようになりました。
・シャマニズムの授業は、とても面白かった
・今回は本当に楽しかった
・すごい授業でした。どちらもとても面白かった。どうもありがとうございました。もう一度来てください。

・シャマニズムについて、新しいことを知りました。

８．今後、どのような授業内容を希望しますか。

・現代日本文学
・現代日本における宗教（神道、仏教）
・日本の神話、現代および古典文学
・日本の伝統とその歴史
・日本の未来、日本人の新しいタイプ
・日本のロック音楽、アニメの歴史、服飾文化
・慣習、伝統的な祝日
・日露関係について
・日本の音楽
・日本と中国・韓国との関係
・江戸時代の武士
・声優について、日本におけるロシア人の滞在史、ロシア文化と関係する日本文化
・宝塚歌劇団について
・日本の若者の問題（引きこもり、ニート、草食系男子や肉食系女子）
・日本語学（意味論）、ポップカルチャーの現象（例えば、モーニング娘、AKB48．なぜ人気があるのか？誰に何の目的で使用されているのか）
・幕末史に関する授業
・日本の音楽史（特に童謡の歴史）
・伊達正宗について。妖怪の話。
・日本の現代の生活について
・日本の会社について
・日本の昔の物語について
・日本人の老いについて、日本車やオートバイの生産方式
・日本の映画、日本の都市
・歌舞伎、神道
・現代の日本美術、日本人の心中、人気のある乗り物、日本の犯罪、死語
・古代日本の国際関係史
・日本の舞台芸術（能、歌舞伎）、日本の初等教育
・日本の教育について
・日本の考古学について
・第二次世界大戦時の日本
・茶道について
・子供の遊びと童謡について